

1 単元名 跳び箱運動

2 運動の特性

(1) 一般的特性

跳び箱運動は、今できる跳び方をより大きく跳び越したり、少し練習すればできそうな跳び越し方に挑戦したりして楽しむ運動である。

(2) 子どもから見た特性 (男子13名 女子15名 計28名)

A 運動の楽しさの体験状況

① 体育の学習は好きですか？

とても好き	好き	嫌い	とても嫌い
19名	9名	0名	0名
<ul style="list-style-type: none"> ・運動が好き 12名 ・できるようになるとうれしい 8名 ・楽しい 3名 ・体育館や外で活動できる 1名 ・ボールを使うから 1名 ・いろんな運動ができる 1名 ・みんなと楽しめる 1名 			

② 跳び箱運動は好きですか？

とても好き	好き	嫌い	とても嫌い
13名	13名	1名	1名
<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになるとうれしい 15名 ・跳ぶことが楽しいから 5名 ・高い段を跳べると達成感がある 2名 ・技ができるとうれしいから 2名 ・練習すれば跳べるようになるから 1名 ・あまり得意ではないから 1名 		<ul style="list-style-type: none"> ・跳ぶのが苦手だから 2名 	

③ 跳び箱運動の学習で楽しかったとき、楽しくなかったときはどのようなときですか。

(自由記述)

楽しかったとき		楽しくなかったとき	
・うまく跳べたとき 10名		・うまく跳べないとき 12名	
・技ができたとき 7名		・楽しい経験しかない 6名	
・跳ぶことが楽しい 3名		・ケガをしたとき 4名	
・高く跳んでいるとき 2名		・ふざけているとき 3名	

・新しい段が跳べたとき	2名	・つまらないとき	1名
・みんなで楽しくできたとき	1名	・台上前転	1名
・きれいに跳べたとき	1名	・低い段を跳ぶとき	1名
・ルールが守れたとき	1名		
・友達に技を教えるとき	1名		

B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況

① 体育の学習の中で、自分の力に合っためあてをもつことができますか？

できる	資料やアドバイスがあれば	自信がない	できない
20名	8名	0名	0名

② 学習を進める中で、困った時はどうしますか？（複数回答可）

友達や先生に聞く	練習する	資料を見る	考える
19名	10名	2名	1名

③ 友達と教え合ったり協力したりできますか？

誰とでもできる	仲のよい友達となら	自信がない
16名	12名	0名

④ 跳び箱運動の中で、どちらをがんばりたいですか？

今できる技をきれいにしたい	新しい技に挑戦したい
13名	15名

⑤ 跳び箱の学習をする時、大切なことはどのようなことだと思いますか？

・安全に気を付けて行う	8名
・ルールを守る	7名
・みんなで教え合う	4名
・姿勢・手のつき方	3名
・先生が言ったことを守る	2名
・準備運動をする	2名
・自分に合った段を選ぶ	1名
・自分が決めためあてを達成する	1名

⑥ 跳び箱の学習をどのような学習にしていきたいですか？

・ケガをしないような学習	11名
・仲よくできる	7名
・みんなが楽しい	4名
・チャレンジできる学習	3名
・教え合う学習	2名
・自分に合った学習	1名

【考察】

A 運動の楽しさの体験状況について

本学級は、身体を動かすことが好きな子が多く、全員が体育の学習を好きと答えている。好きな理由の中には、「運動が好き」ということに続き、8名（28.5%）が「できるようになることがうれしい」という回答をしている。これまでの体育学習での成功体験により、達成感を味わうことにうれしさを感じているようである。新しい技に挑戦する際には、それぞれが達成感を味わえるように、場の設定をしたり、お互いを認め合う雰囲気を作ったりしていきたい。

跳び箱運動の学習では、技ができることに楽しさを感じているが多い。逆に、多くの子がうまく跳べなかった時に楽しくないと感じている。そこで、今できる技を跳ぶ時間を設定することで、跳び越す楽しさをより感じさせていきたい。また子どもたちは、できる技に対して段数をより高くして跳ぶことしか経験していない。そこで、高さ以外でも第1空間や第2空間を大きくする楽しさを感じさせ、跳び箱運動の特性に触れさせていきたい。高さ以外の面にも目を向けさせ、意欲的に学習に取り組みさせていきたい。

B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況

自分の力に合っためあてを20名（71.4%）がもてると回答している。しかし、4月に行ったマット運動の学習では、仲のよい友達のいる場や楽しそうな場を選ぶ姿も見られ、めあて学習の経験が乏しい様子が感じられた。そこで、「自分に合っためあての設定→課題の選択→活動の決定」というめあて学習の流れを子どもたち自身に理解させ、その楽しさを感じさせられるような学習の道すじにしていきたい。その中で、自分に合っためあてがもてるように持ち技系統表により自分の技の状況を把握したり、課題が選択しやすいようにそれぞれの技のポイントを明確にした資料を提示したりしていきたい。

「跳び箱の学習をどのような学習にしたいか」ということに対して12名の子が「ケガをしないようにしたい」（42.8%）と答えていることや「跳び箱の学習で大切なこと」に対して8名の子が「安全に気を付けて行う」（28.5%）と答えていることから、跳び箱運動に対して恐怖心を抱いているように感じられる。そういった恐怖心があることで、新しい技に挑戦していこうという意欲に少なからず影響があると考えられる。そこでマットやセーフティマットを活用することや友達と安全面を確認するルールを徹底することで、より安全な場を確保し、安心感をもち学習に取り組みさせていきたい。

多くの子が、学習で困ったときには「友達や先生に聞いている」（68%）ことやまた友達との教え合いが「できる」と答えている。友達のアドバイスが自分のコツとなり、活かされているようである。跳び箱運動は、個人で取り組んでいくイメージが強いが、子どもたちが見合う観点をもちアドバイスしていくことで、技をさらに高められるような学習にしていきたい。

C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

開脚跳びをたくさん学習し、全員が跳び方を習得している。また習得すると高い段へ挑戦し、半数の子が8段の高さを跳ぶことができている。しかし、他の技の習得状況が低い。単に技能が低いからというわけではなく、怖さから挑戦していなかったり技の学び方がわからなかったりという様子である。そこで、めあて②では「少し努力すればできそうな技に挑戦する」時間を設け、技のポイントを示した学習資料や練習の場を用意し、できるようになる技を増やす楽しさを味わわせていきたい。

技の習得状況（△は不十分）

	名前	体育は好きか?	跳び箱が好きか?	めあてがもてるか?	開脚跳び	かかえ込み跳び	台上前転
1	I. M	◎	○	◎	8	6 △	6 △
2	W. K	○	○	○	6		
3	N. S	○	○	◎	8		
4	U. M	◎	◎	◎	7		
5	M. M	◎	○	○	5		
6	M. A	○	○	○	7		
7	I. R	◎	△	○	8		
8	W. Y	◎	◎	◎	7		
9	M. N	◎	○	◎	8	6 △	
10	K. A	◎	◎	◎	8	7	8 △
11	K. A	○	◎	◎	6		
12	Y. K	○	○	◎	4・横5		
13	I. R	◎	◎	◎	7	7	7
14	K. M	◎	◎	◎	8	7	8 △
15	S. M	◎	○	◎	7		
16	T. M	◎	○	◎	4・横5		
17	T. K	◎	○	◎	8		
18	K. T	◎	◎	◎	8		7
19	S. M	◎	◎	◎	6		6 △
20	A. R	○	○	○	横5		
21	S. K	◎	◎	◎	8		
22	U. Y	○	◎	◎	8	7	8
23	K. M	○	○	○	4・横5		
24	I. A	◎	×	◎	4・横5		
25	O. N	◎	◎	◎	8		
26	Y. M	◎	◎	○	8		
27	I. G	◎	◎	◎	8		7
28	T. I	◎	○	◎	8	7	8

3 視点と学習の手立て

(1) 市教研小学校体育部研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 学習の手立て

視点1

子どもの実態を的確に把握し、運動の特性と指導内容を明確にした上で、子どもたちが学習意欲や目標をもって取り組めるよう道すじを工夫する。

○ 跳び箱運動の楽しさを味わうための道すじ

本学級の子どもたちは、開脚跳びの習得率が高く、半数近くの子が8段の高さを跳び越すことができている。しかし、高い段数を跳び越すことに目が行きがちで、それ以外の経験を味わってきていないようである。そこで、自分に合った高さの跳び箱で、第1空間や第2空間を大きくする跳び箱の楽しさを十分に味わわせていきたい。そのために、初めにめあて①の「今できる跳び方でより大きく跳び越して楽しむ」学習を1時間行う。この1時間の学習の中で、技を大きくするためにはどうすればよいのかや見合う観点の共有化を図っていきたい。

また、開脚跳びしか経験していない子が多く、様々な技ができていく楽しさに十分触れられていないように感じられる。そこで、めあて②の「少し努力すればできそうな跳び越し方に挑戦して楽しむ」を1時間設定し学習することで、技ができるようになるためのプロセス「自分に合っためあての設定→課題の選択→活動の決定」を理解させていきたい。そのためには、学習資料の活用方法を知り、「自分に合っためあての設定」、「課題の選択」をしっかりと行っていきたい。

それぞれめあて①とめあて②の学習を1時間行うことで、それぞれの学習の楽しさを十分味わわせ、子どもたちの学習意欲を高めていきたい。そして、どの子も1時間の中で、その楽しさを味わいながら意欲的に取り組めるようにスパイラル型の学習に取り組んでいきたい。

視点2 一人一人のよさを伸ばす学習を進めるための手立てを工夫する。

○ 場の工夫

めあて①では、今できる跳び方でより大きく跳び越して楽しめるようにしていく。

第1空間を大きくしていこうとする子どもに対しては、踏み切り調節板の数を変えて大きな飛躍を意識させたり、包帯を張ったポールで腰を高く上げたりする感覚を身に付けさせていきたい。また第2空間を大きくしたい子どもには、マットにテープを貼って遠くに着地することを意識させていきたい。また、ひねりを加えて横向きで着地をするなど、さらにアレンジを加えることで、より跳び箱運動の楽しさに触れさせていきたい。

めあて②では、もう少し練習すればできそうな跳び越し方に挑戦して楽しめるようにしていく。

実態から、技ができない時に楽しくないと感じている子どもが多い。そこで、スモールステップの場を用意することで、達成感を感じさせ、挑戦することへの抵抗感を減らしていきたい。その際、自分に合った場を選べるよう学習資料を子どもたちに持たせ、学習に取り組ませていく。

○ 友達とのかかわり

めあて①では、踏み切り・着地に絞り、同じ場で練習している友達と見合う活動をさせていきたい。踏み切りでは、踏切り板にテープを貼り、正しい位置で踏み切れているかを確認させる。着地では、足が着いてから2秒間静止することができたかを確認させる。この2観点を見合うことで、跳ぶ際により意識して取り組ませ、技を高めていきたい。

めあて②では、めあて別グループを組み、その中で互いのめあてを確認させる。同じ場で練習する友達とめあてを共有し合うことで、かかわり合いを深めていきたい。友達にめあてができていないかを見てもらったり、どうすればできるようになったのかを聞いたりすることで、めあて②の学習を高めていきたい。

また、技を大きくしたり、できるようになったりするためには、どのようなコツがあるのかをカードに書き資料に掲示していく。技のポイントについては、それぞれの子どもの考えがあり、みな一様ではないであろう。子どもたちの言葉で資料を充実させていくことで、自分に合った技のポイントを見つける手助けとなる学習資料にしていきたい。

4 学習のねらいと道すじ

(1) 学習のねらい

- 進んで技を高めたり、新しい技に挑戦したりすることができる。
- 自分の力に合っためあてをもち、学習カードや資料から、適切な練習方法や場を選んで活動することができる。
- 今できる跳び方でより大きく跳び越したり、少し努力すればできそうな跳び越し方に挑戦したりして、跳び越すことができる。


(2) 学習の道すじ (6 / 7)

	1	2	3	4	5	⑥	7
0 ↓ 4 5	オリエン テーショ ン	主運動につながる運動					
		めあて①	めあて②	めあて①			まとめ
今できる跳び方でより大きく跳び越して楽しむ。				めあて②		少し努力すればできそうな跳び越し方に挑戦して楽しむ。	
関意 態	○			○			○
思・ 判		○	○	○		○	
技能					○		○

5 評価規準

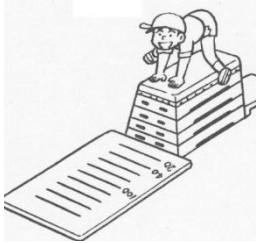
運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
○進んで技を高めたり、新しい技に挑戦しようとしている。 ○友だちと協力して、準備や後片付けを行おうとしている。 ○約束やきまりを守ろうとしている。 ○安全に留意しようとしている。	○自分の力や様々な場の特徴を知るとともに、それに合っためあてを立てている。 ○めあてを意識して練習に取り組んでいる。 ○学習資料や学習カードを活用して、練習の場を選んでいる。	○自分の力に合った技に取り組み、大きな動作で跳び越すことができる。 ○新しい技に挑戦し、跳び越すことができる。

6 学習活動と支援 (本時6/7) 指導も

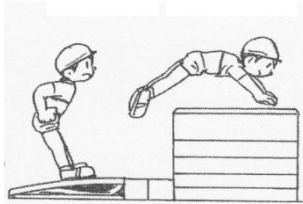
はじめ	1 オリエンテーションをする。 ○学習のねらいを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。 ○安全・マナーについて理解する。 ○学習カード、学習資料の活用方法について理解する ○場づくりについて理解する。	
	学習活動と内容	教師の支援・評価 (◇評価)
なか	1 学習の場づくりをして、準備運動をする。 主運動につながる運動 ・馬跳び ・マット跳び越し (開脚跳び・かかえ込み跳び) ・腕支持ジャンプ ・正面かかえ込み跳び乗り→跳び下り	○準備する場を決めておき、協力して行うように声をかける。 ○一つ一つの動きがどの技につながるのかを意識させ、正しく行えるよう助言する。 ◇友だちと協力して準備しようとしている。 【関心・意欲・態度】
1		○今日のめあてを確認し、踏み切りと着地について友達と見合えるように指導する。 ○どのようにすれば技を大きくすることができたのかそれぞれのコツを見つけるように助言する。 ◇技のポイントを知るとともに自分の力に合っためあてを立てようとしている。【思考・判断】
	2 本時のめあてと学習の進め方を確認する。	
	3 めあて①の活動をする。	
	めあて① 今できる跳び方でより大きく跳び越して楽しむ。	
	(予想される活動とめあての例) ○開脚跳び・かかえ込み跳び ・踏み切り調節板を3つ入れた場で、勢い	○自分に合った高さの跳び箱を選んでいるか確認し、状況によって助言する。 ○跳び終わった子どもは、場の安全を確認し、次

よく跳び越そう。

- ・ 3本目の線で着地をしよう。
- ・ 着地の前にひねりを加えてみよう。
- ・ 縦の跳び箱で跳び越そう。



第2空間を大きくして、3本目の線で着地をしよう。



踏み切り調節板を2つ置いて、第1空間を大きくしよう。

○ 台上前転

- ・ ゴムを張ったポールで、腰を高く上げよう。
- ・ ひざを伸ばして大きく回ろう。

4 できばえを確かめる。

5 めあて①の活動をする。

の友達の踏み切り・着地を見るように指導する。

○大きく跳び越している子どもや踏み切りや着地を見合えている子どもを称賛し、学習への意欲を高める。

○大きく跳び越すことを意識させるような用具の準備をする。

- ・ ライン入りマット
- ・ 踏み切り調節板
- ・ ゴムを貼ったポール

○次の人への合図をしっかりと行えるように声かけをする。

○技を大きくするためのコツや感覚を掴むよう助言する。

◇約束やきまりを守ろうとしている。

【関心・意欲・態度】

◇めあてを意識して練習に取り組もうとしている。【思考・判断】

○どのようにすれば、技を大きくすることができたのか技のポイントを共有しながら、互いの技を確認させる。

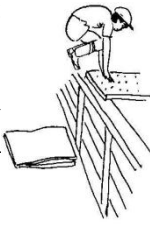
○技を大きくするためのコツを掴んだら、カードに書くようにさせる。

○自分のめあてを意識することができたかを確認し、自分に合っためあてがもてるように指導する。

○見合う観点を理解し、友達にアドバイスをしている子を称賛することで、意欲をもたせる。

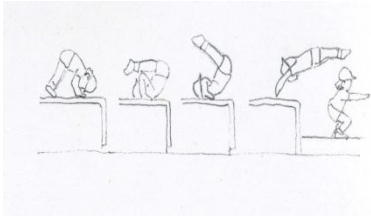
○学習資料を活用し、技のポイントを意識しながら取り組むように指導する。

○技を大きくするためのコツや感覚を掴むよう助言する。

<p>な か 2</p>	<p>6 学習の振り返りをする。</p> <p>7 後片付けをする。</p> <p>1 学習の場づくりをして、準備運動をする。 主運動につながる運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 馬跳び ・ マット跳び越し (開脚跳び・かかえ込み跳び) ・ 腕支持ジャンプ ・ 正面かかえ込み跳び乗り→跳び下り <p>2 本時のめあてと学習の進め方を確認する。</p> <p>3 めあて②の活動をする。</p>	<p>○どのように学習することで、技が大きくなってきたのかを全体で共有する。</p> <p>○安全に気を付けて友達と協力して後片付けを行わせる。</p> <p>◇友達と協力して後片付けをしようとしている。 【関心・意欲・態度】</p> <p>○準備する場を決めておき、協力して行うように声をかける。</p> <p>○一つ一つの動きがどの技につながるのかを意識させ、正しく行えるよう助言する。</p> <p>◇友達と協力して準備しようとしている。 【関心・意欲・態度】</p> <p>○自分のめあてを確認し、学習の見通しをもたせる。</p> <p>○自分の持ち技の状況について理解できるようにする。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて② 少し努力すればできそうな跳び越し方に挑戦して楽しむ。</p> </div> <p>〈予想される技と練習の進め方〉</p> <p>○かかえこみ跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 跳び箱に足の裏で跳びあがる。 ・ ステージに足の裏で跳びあがる。 ・ 2つ並べた跳び箱の間にロールマットを挟んだ場で練習する。  <p>○台上前転</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 跳び箱を2個並べた場で前転する。 ・ 段差なしで前転する。 ・ 段差をつけて前転する。 	<p>○同じグループ同士でめあてを確認し、お互いに見合うよう指導する。</p> <p>○めあてに合った場を選んでいるか確認し、必要に応じて助言する。</p> <p>○技のコツについて、学習資料を見たり、友達同士で伝え合ったりするよう助言する。</p> <p>○場の安全（マット・跳び箱がずれていないか、周囲の安全）を確認させ、安全面に十分留意させる。</p> <p>○取り組んでいる技のポイントを意識して練習できるように助言する。</p> <p>○練習の場でのできばえについて称賛し、できるようになったら試しの場でも挑戦するよう促す。</p>

○首はね跳び

- ・ステージからゆっくり前転をして足を蹴りだす。



○あおむけ跳び

- ・手をつかずに跳び越す。
- ・2つ並べた跳び箱の間にロールマットを挟んだ場で練習する。

○横跳び越し

- ・平均台を使って跳び越しをする。
- ・踏切り板を斜めにして手の着く位置を少しずつ遠くにしていく。

4 できばえを確かめる。

5 学習の振り返りをする。

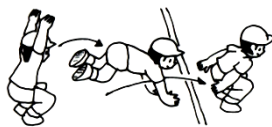
6 後片付けをする。

な
か
3

1 学習の場づくりをして、準備運動をする。

主運動につながる運動

- ・馬跳び
- ・マット跳び越し
- ・腕支持ジャンプ
- ・正面かかえ込み跳び乗り→跳び下り



○技のイメージがつかめていない子どもには、教師が師範して見せる。

○必要に応じて補助をし、感覚をつかませる。

○試しの場で技ができるようになった子には、さらに別の技に挑戦するよう促す。

○グループで見合いながら取り組んでいる場を称賛し、互いに高め合おうとする意欲をもたせる。

○自分に合った練習の場を工夫している子どもを称賛する。

◇学習資料や学習カードを活用して、練習の場を選んでいる。【思考・判断】

◇進んで新しい技に挑戦しようとしている。

【関心・意欲・態度】

○新しい技ができた子どもやがんばっていた子どもを紹介し、全体で練習方法や場を共有する。

○練習を工夫していた子を紹介し、次時の学習への意欲を高める。

○学習カードに振り返りと次時のめあてをもたせる。

○安全に気を付けて友達と協力して後片付けを行わせる。

◇友達と協力して後片付けをしようとしている。

【関心・意欲・態度】

○準備する場を決めておき、協力して行うように声をかける。

○一つ一つの動きがどの技につながるのかを意識させ、正しく行えるよう助言する。

◇友達と協力して準備しようとしている。

【関心・意欲・態度】

2 本時のめあてと学習の進め方を確認する。

○自分の持ち技の状況について理解できるようにする。

○学習資料や前時の学習を振り返り、自分のめあてを確認する。

◇自分の力や練習の場に合っためあてを立てようとする。【思考・判断】

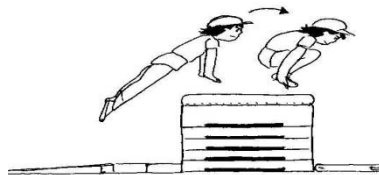
3 めあて①の活動をする。

めあて① 今できる飛び方でより大きく飛び越して楽しむ。

〈予想される活動とめあての例〉

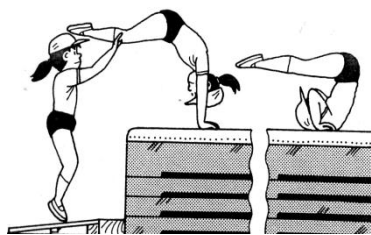
○開脚跳び・かかえ込み跳び

- ・ふみきり調節板を3つ入れた場で、勢いよく飛び越そう。
- ・3本目の線で着地をしよう。
- ・着地の前にひねりを加えてみよう。
- ・縦の飛び箱で飛び越そう。



○台上前転

- ・ゴムを張ったポールで、腰を高く上げよう。
- ・ひざを伸ばして大きく回ろう。



○横跳び越し

- ・ひざを伸ばして跳んでみよう
- ・3本目の線で着地をしよう。
- ・縦の飛び箱で跳んでみよう。
- ・着地の前にひねりを加えてみよう。

○首跳ね跳び

- ・3本目の線で着地をしよう。
- ・ひざを伸ばして大きく回ろう。

○自分に合っためあてをもっているかを確認し、必要に応じて助言する。

○跳び終わった子どもは、場の安全を確保し、次の友達の踏み切り・着地を見るように指導する。

○大きく飛び越している子どもや踏み切りや着地を見合っている子どもを称賛し、学習への意欲を高める。

○大きく飛び越すことを意識させるような用具の準備をする。

- ・ライン入りマット
- ・踏み切り調節板
- ・ゴムを貼ったポール

○次の人への合図をしっかりと行えるように声かけをする。

○大きく飛び越すコツが掴めない子には、資料を見るよう助言する。

○第1空間を大きくしたい子

踏み切る前の一步を意識して強く踏み切り、腰がふわっと浮く感覚を身に付けさせる。

○第2空間を大きくしたい子

着手した後の突き放しを強くすることで、より高くより遠くへ跳ぶ感覚を身に付けさせる。

◇進んで技を高めようとしている。

【関心・意欲・態度】

◇自分の力に合った技に取り組み、大きな動作で飛び越すことができる。【技能】

○あおむけ跳び

- ・ 3本目の線で着地をしよう。
- ・ 着地の前にひねりを加えてみよう。



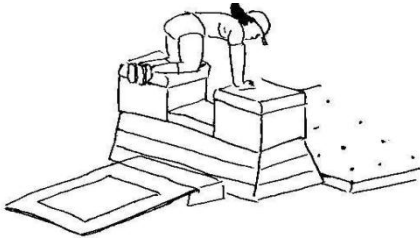
5 めあて②の活動をする。

めあて② 少し努力すればできそうな跳び越し方に挑戦して楽しむ。

〈予想される技と練習の進め方〉

○かかえこみ跳び

- ・ 跳び箱に足の裏で跳びあがる。
- ・ ステージに足の裏で跳びあがる。
- ・ 2つ並べた跳び箱の間にロールマットを挟んだ場で練習する。



○台上前転

- ・ 跳び箱を二個並べた場で前転する。
- ・ 段差なしで前転する。
- ・ 段差をつけて前転する。



○首はね跳び

- ・ ステージからゆっくり前転をして足を蹴り出す。

○あおむけ跳び

- ・ 手をつかずに跳び越す。
- ・ 2つ並べた跳び箱の間にロールマットを挟んだ場で練習する。

○自分のめあてを同じグループ同士で確認し、お互いに見合うように指導する。

○場づくりのグループを決めておき、すばやく場づくりを行えるようにする。

○めあてに合った場を選んでいるか確認し、必要に応じて助言する。

○技のコツについて、学習資料を見たり、友達同士で伝え合ったりするよう助言する。

○場の安全（マット・跳び箱がずれていないか、周囲の安全）を確認させ、安全面に十分留意するよう指導する。

○取り組んでいる技のポイントを意識して練習できるよう助言する。

○練習の場でのできばえについて称賛し、できるようになったら試しの場でも挑戦するよう促す。

○必要に応じて補助をし、感覚をつかませる。

◇学習資料や学習カードを活用して、練習の場を選んでいる。【思考・判断】

◇めあてを意識して練習に取り組もうとしている。【思考・判断】

◇新しい技に挑戦し、支持跳び越しができる。【技能】

○かかえこみ跳びに対する支援

跳び箱やステージに足の裏で跳び上がることで、手の突き放しと足をかかえこむタイミングを身に付けさせる。



○横跳び越し

- ・平均台を使って跳び越しをする。
- ・踏切り板を斜めにして手の着く位置を少しずつ遠くにしていく。

6 できばえを確かめる。

7 学習の振り返りをする。

8 後片付けをする。

○台上前転に対する支援

マットでまっすぐ前転できるようラインで示す。頭の付く面積の広い場から順に取り組みせ、安全に段階を追わせるようにする。

○頭はね跳びに対する支援

ひざをのばした前転でステージからゆっくり降りる。→ステージからはねて降りる。と段階を追わせて、タイミングをつかませる。

○あおむけ跳び

片足で強く踏み切り、体をふわっと浮かせる感覚を身に付けさせる。中抜き跳び箱で、着手のタイミングをつかませる。

○横跳び越し

平均台を跳ぶことや段階的に跳び箱の上を跳ぶことで、跳び越す感覚を身に付けさせる。

○新しい技ができた子どもやがんばっていた子どもを紹介し、全体で練習方法や場を共有する。

○練習を工夫していた子を紹介し、次時の学習への意欲を高める。

○学習カードに振り返りと次時のめあてをもちこせる。

○安全に気を付けて友達と協力して後片付けを行わせる。

◇友達と協力して後片付けをしようとしている。

【関心・意欲・態度】

ま
と
め

学習のまとめをする。

○今できる跳び方でより大きく跳び越したり、少し努力すればできそうな跳び越し方に挑戦したりすることができたか。

○友達同士で教え合いながら、進んで跳び箱運動に取り組むことができたか。

○自分の力に合っためあてをもち、学習カードや資料から、適切な練習方法や場を選んで活動することができたか。

